

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370107165		
法人名	テルウェル西日本株式会社		
事業所名	NTTグループ ケアポート岡山 (2Fユニット)		
所在地	岡山県岡山市中区湊264-8		
自己評価作成日	平成23年1月12日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=3370107165&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成23年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・スタッフは皆心優しく、ご利用者のことを思いやり、自分の親や祖父母をみるような気持ちで接しています。
 ・家庭的な雰囲気の中で落ち着いた生活が送れるように支援し、長生きをしようと思っただけでなく、ご利用者一人ひとりを尊重し、また、できる限り最後のステージまで一緒に過ごし、ここを選んでよかったと思っていただけるようなグループホームを目指しています。
 ・ご利用者の「今」を大切に、一人ひとりに心を向け、毎日楽しく笑顔が溢れるグループホームにするために、ゲームやレクリエーションへの参加を促し、家庭では味わえない外出や楽しみを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2つのユニットに18名の利用者と20名の職員が共に生活している。車椅子の人も外出行事にボランティアの協力を得るなどして、明るく活動的な生活ができるよう努力している様子が窺われた。
 手芸、絵画、生け花、朗読などボランティアの訪問も活発で、いくつになっても入居者の皆さんが特技を活かして喜びの多い生活を送っている。
 ご家族の訪問も頻繁にあり、ご家族とのコミュニケーションも良好で、職員との信頼関係は入居者の穏やかな生活につながっている。
 職員の配置には余裕があり、外部研修を積極的に受講し、月1回のスタッフミーティングで報告する等スキルアップ、サービス品質向上と情報共有化に取り組んでいた。2つのユニットともチームワーク良く、笑顔一杯、生き生きと利用者とのコミュニケーションや寄り添い等、十分に満足できるグループホームということが出来る。毎年秋に開催される「ケアポート岡山まつり」には利用者の家族、地域の人々など約600人の参加があり、地域密着の活動として定着している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	掲示して朝の申し送りの際、必ず理念を唱和し、一日のスタートとしています。	理念“支え合い共に創る快適生活”は礎となるものであり、リビングルームに掲げ、毎朝、朝礼時に唱和し、みんなで共有している。	理念を日々唱和して実践につなげる事も大切ですが、もう一步踏み込んで、理念を目標で具体化して、それを達成していくことで理念がより生きてくのではないのでしょうか。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内の夏祭り、運動会等に参加しています。 ・ケアポート祭りには毎年地域の方が多く来場されています。 ・近隣の保育園から園児が年2回当施設を訪問してくれます。	町内会に所属し、町内の溝掃除や夏祭りに参加している。地域の方達の為に施設のかかりつけ医が健康についての講演をしたり、ケアポート祭りには毎年500～600人の方達が参加して地域との交流を深めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会、運営推進会議を実施しています。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・町内会長、老人会会長、民生委員、交通安全母の会会長、家族会メンバー、地域包括支援センターにも参加してもらっています。	地域包括支援センター、町内会長、老人会会長、民生委員、交通安全母の会会長、家族会メンバーが参加して活発な意見交換が行われている。災害避難時の近隣への協力も、この会議を通してお願いしている。	運営推進会議では出席者に利用者の事を理解してもらうことを大きな目標に掲げ、施設の行事と一緒に開催してはどうでしょうか。年6回の開催を目指していただきたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・町内の公会堂を使用して平日に運営推進会議を実施することにしたため、市町村担当者も参加できるようにしました。	運営推進会議に一度参加して頂く位で、あまり連携は取れていないが、今後は施設の行事等の見学もお願いして連携を深めて行きたいと考えている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・研修で学んだことをスタッフと共有しています。 ・どうしても必要な場合には、ご家族に説明しています。	マニュアルを作り、ミーティングで話し合っ情報共有している。身体の危険がある等、どうしても必要な場合には家族に説明して同意を得ている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・言葉遣いや態度など、常にミーティングで話題にしています。 ・ご利用者が快適に暮らせるよう配慮し、実践しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については、以前学ぶ機会があったので、研修資料をファイルして、スタッフがいつでも見れるようにしています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人、ご家族立会いの下に説明し、十分ご理解いただいています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄閣ご意見箱を設置しています。 ・日常的にご家族の面会時や、電話があったときにご意見、ご要望を聴いています。 ・岡山市介護相談員制度を利用しています。 	面会時や電話で家族の意見、要望を聞いて運営に反映させている。家族会もあり、参加者も多く、意見や相談が活発に行われている。玄閣には意見箱が置かれ、自由に意見を述べる事が出来る。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・2ユニット合同のミーティングを毎月もっています。施設長、事務長にも出席してもらい、意見交換を行っています。 	毎月、ユニット合同でケア会議をして意見交換している。週1回の朝礼、親睦会には施設長も参加しているし、日々の申し送り時にも気軽に発言できる環境である。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・施設長が年1回個人面談を行い、希望や意見を聴きとっています。 		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な研修の機会を捉え、できるだけ多くのスタッフが参加できるよう配慮しています。 ・研修の成果は、報告書を作成させミーティングでの発表とともに、実践による共有化を図っています。 		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームのスタッフや管理者とのネットワークを持っています。行事への参加など、交流も図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ゆっくりご利用者との面談のうえ、アセスメントシートを利用して、生活面やライフスタイルを把握しています。 ・ご家族からできるだけ沢山の情報をもらい、安心して生活していただけるよう配慮しています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	しっかりと時間をかけてお話しをしています。 ご家族の協力があれば、ここで最後まで過ごしていただけるつもりで良好な関係作りをしています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中から把握に努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者が主役になる場面、役割を作り、スタッフから「ありがとう」、「助かります」と言える場面を度々作っています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・季節の変わり目に衣替えを手伝ってもらったり、月1回手紙を郵送し、現状を報告しています。 ・お誕生日会、敬老会にはご家族を招待しており、いつでも訪問されやすい雰囲気づくりに配慮しています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ご利用者が町内のお祭り、運動会、敬老会などに参加したり、ご近所の方が訪問してくれたり、親しい人との交流を続けています。 ・ご家族との外出、外食、仏壇へのお参りなどもされています。	利用者が町内の祭りや運動会、敬老会等に参加したり、近所の方が施設を訪問する事もあり、馴染みの交流が続いている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ゲーム、手芸、歌、レクリエーションを一緒に楽しんだり、お手伝いも一緒にしてもらうなど、お互いの良さを認め合い、仲良く暮らせるよう支援しています。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・病院や他の施設に移られても、面会に行くなど関係を大切にしています。 ・年賀状をずっと送ってくださるご家族もいらっしゃいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> これまでの生活歴、ご利用者の趣味など「暮らし方シート」にまとめ、それぞれの思いを大切に捉えてご希望に沿った支援を行っています。 縫い物、絵、歌、散歩や買い物など、ご利用者の喜ぶ支援を心がけています。 	一人ひとりの気持ちや意向を聞いて本人本位のケアをしている。利用者やゆったりとした気持ちで「触れ合うようにして、色々な思いや気持ちをつかむよう職員が頑張っている様子が伺えた。	ご利用者の思いや意向を知るためにコミュニケーションしながら、表情を見ながら職員の感性や洞察力をさらに磨いていきましょう。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 「アセスメント表」を基に検討しています。 ご利用者、ご家族の話をしっかり聴くことを心がけています。 		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ご利用者の心身の状態はスタッフ全員が毎日正確に把握するよう努めています。 介護記録連絡ノート、個人別申し送りノート、日誌にもれなく記入しています。 		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの担当者とケアマネージャが協力してご利用者とご家族のご要望、ご意見を聴き取り、担当者会議において話し合いながら計画を立てています。 モニタリングも日々行っています。 	担当者とケアマネージャが本人や家族の要望や意見を聴き取り、担当者会議で検討を重ねて計画を立てている。日々の生活の様子やミーティングでそれぞれ評価を行い、計画の見直しも行っている。	介護計画、日々の記録の仕方はもう少し簡潔で効果の高い方法を考えて行きませんか。日々の記録をアセスメントに生かしていけるよう期待しています。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の「申し送りノート」、「連絡ノート」、「介護記録」、「グループホーム日誌」に必要な情報を記入し情報の共有化を図っています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の状態は日々常に変化しているので、その時々でケアサービスの内容を柔軟に変えて対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園・お地藏様への散歩、近隣保育園の園児が訪問してくれたり、地域との良好な関係を保ちながらその資源を活用しています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、主治医の往診があり、一人ひとりの状態をDr.に伝えています。 また、変調があるときは、すぐに連絡・受診ができるよう支援しています。	毎月、かかりつけ医の往診がある。ひとりひとりの「療育ノート」に既往、受診状態を記録し、職員はみな状態を把握している。変調がある時は直ぐ連絡し、受診できるよう支援している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週1回の訪問看護師にバイタルチェック、排便、浣腸、糖尿病の方の爪切など等をお願いしています。 ・心配な点については、相談したり、アドバイスを受けたりしています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のケースワーカーとの情報連絡体制を密にし、Dr.Ns.OT.PT.栄養士ともカンファレンスを行い、グループホームでも安心して退院後の生活を支援できるようにしています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化対応指針を書面にして説明し、同意サインをもらっています。 ・終末期の意向確認書も同様にしています。 ・ご家族と十分に話し合い、必要に応じて主治医、訪問看護師にも同席してもらっています。	重度化や終末期対応は書面化し説明を行い、同意のサインをもらっている。重度化し医療の必要がない場合、家族の協力が得られれば、医師・看護師とも連携を取り、看取りを行う覚悟はあるが、今のところ経験はまだない。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡体制図を事務室に掲示しています。 また、緊急時マニュアルを作成し、スタッフの勉強会をもっています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年に2回、訓練を実施しています。 ・町内会の方にも、運営推進会議の機会を捉え、ご協力をお願いしています。	年2回避難訓練をしている。運営推進会議で地域の方達にも協力をお願いしている。また、消防署の方に施設を見学してもらい、避難経路の確認もしてもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・スタッフは入居者との信頼関係が一番大切であると思い、一人ひとりを尊重した言動で対応しています。 ・面会者の記録は個人別に行っています。	一人ひとりを尊重した声掛けや介護を行っている。昼食後、隣に座っていた利用者がいないと思っていたら、昼寝のため居室にそっと誘導していたことを後で知らされた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者との関わりを密にもち、なるべく多くの思いを出せ、自由に生活してもらえよう支援しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの人員も充実しているので、利用者本位のペースを大切に介護を心がけています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・服装を選べるご利用者には、今日は何を着るのか、ご自身に決めてもらっています。 ・月に1回、理美容が来所するので、眉の手入れ、毛染め、パーマなどをされています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・テーブル拭き、お膳拭き、食材の下拵え等をお願いしています。 ・ご利用者の食べたいものを聞いたり、お弁当や握り寿司、おはぎ等、出前を取ったり、変化をつけています。	利用者の希望を聞き、その日の担当職員が調理する。利用者もテーブルを拭いたり自分に出来る事を自主的に手伝っている。職員も一緒にテーブルでみんなと会話をしながら食事を楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・ミキサー食、トロミ食、きざみ方、味付けに配慮しています。食べられないときは、ご利用者の好みそうなものを提供します。 ・水分は季節に応じて、冬はしょうが湯、くず湯、甘酒、ココアなどを提供しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入れ歯の洗浄、ブラシを使用した口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の習慣、その日の様子やチェック表で判断して、トイレでの排泄支援を行っています。 ・ご利用者に合わせたタイミングを計り、なるべく失敗のないよう配慮しています。 	一人ひとりに合わせ声掛けしたり、さり気なく誘導している。夜間はポータブルトイレを使用する方も居る。転倒の危険のある方は、夜間、職員がその方の居室のすぐそばで見守るよう配慮している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の牛乳や果物、繊維質の食品を提供しています。 ・「おなかの体操」をレクリエーションに取り入れています。 		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの希望になるべく合わせています。 ・一日おきの入浴を基本としていますが、不穩時に入浴で落ち着く方には毎日入浴してもらっています。その他、足浴や清拭も行っています。 	原則1日隔の入浴であるが、一人ひとりの希望に合わせて、毎日入浴したい方には希望に沿い、入浴や足浴出来るよう配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入床前には温かい飲み物を提供して、ゆっくり休んでいただけるようにしています。 ・敷毛布やアンカ等、気持ちよく眠れるよう配慮しています。 		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・薬が変わったときには、特に体調の変化がないかスタッフ全員が注意して観察しています。 ・薬の内容の説明書は必ず読んでいます。 		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者の興味を引き出す工夫や、ボランティアの訪問により、新しいことに挑戦されています。 ・百人一首の得意な方、ことわざの得意な方、計算が上手い方など、それぞれ力を出せています。 		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ外出の機会を作り、演奏会、フラダンス発表会、お花見、菊花展、初詣と季節毎に出かけています。 ・ご家族にもお願いして、外出や美容院、お友達に会いに行くなどしてもらっています。 ・スタッフと一緒に散歩や買い物に出かけています。 	利用者の希望に応じて近所を一緒に散歩したり、お花見や菊花展など季節を感じられるよう外出支援を行っている。先日も新聞社主催の展覧会にみんなで出掛け楽しかったようだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品や洋服など、スタッフと一緒に買い物に行ったり、おやつやデザートなど好きなものを選んでもらい購入しています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	フリーダイヤルにご家族・お友達に電話をかけていただいたり、手紙・はがきのやり取りをして、遠くに住む友人やお孫さんとも交流していらっやいます。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の生け花や押し花を飾り、ホールには行事やお誕生日会の写真、ご利用者の手芸作品などを飾っています。	日照りが良く、清潔なりビングにはソファやマッサージチェアがおかれ、壁にはみんなで作った作品や写真が飾られて居心地が良い。節分のお面づくりをする方、広告を折り作品を作る方等思い思いに過ごしておられた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやマッサージ機でくつろいでおられたり、自分の部屋でTVを見たり、皆さん自分の空間を楽しまれていらっやいます。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ご本人が使っていた家具やドレッサーを持ち込んでいらっやいます。 ・各ご利用者それぞれ個性的にご自分の部屋づくりをされていらっやいます。	居室にはベッド、エアコンが備え付けであり、各人は使い慣れた衣装ケースや家具を持ち込み、壁には自分の作品や家族の写真を飾り、居心地良く暮らせるようになっていた。入口に花を飾り、部屋を間違えないような配慮もされていた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋を間違えるご利用者には、入口に「のれん」をかけるなど工夫しています。		